

八代港港湾計画(改訂)

1. 概要

【沿革と現状】

八代港は熊本県第二の都市八代市を流れる球磨川^{くま}の河口部に位置し、古くから八代地域の政治、経済、文化の発展に寄与してきた。昭和34年に重要港湾に指定されてから港勢を拡大し、特に昭和39年に八代市が新産業都市の指定を受けたのを契機に臨海工業用地の造成、企業立地と相まって、八代港の取扱貨物量はさらに増大し、港湾機能も強化されてきた。平成16年の取扱貨物量は、外貿171万トン、内貿319万トン(うちフェリー18万トン)、合計489万トンである。

八代港の主要な取扱貨物は、石油、石炭を中心としたエネルギー資源、木材チップや穀物等のバラ積み貨物などであるが、これらの物資を輸送する油送船やバルク船は、輸送コスト削減による競争力強化のために大型化の傾向にあり、現状では喫水調整などの非効率な輸送が課題となっている。

また、住民ニーズが多様化する中であって、港や海に親しむための潤いとにぎわいのある空間の形成、大規模地震災害時の市民生活の安全安心確保、企業の産業活動を支える工業用地の確保など物流に加えて様々な機能の充実が求められており、八代港全体として多様な機能が調和した港湾空間の創造が必要となっている。

【港湾計画の主な方針】

八代港の多様な要請に対応していくために、平成30年代前半を目標年次として、「熊本県の産業を支え市民に開かれた港」を目指して、以下のような方針により、港湾計画を改訂するものである

I. 既存施設の有効活用による物流機能の強化

(1) 大型船の入港に対応した公共ふ頭の機能強化

- ・穀物・石炭・チップを積載した大型船舶の入港に対応した公共ふ頭の整備を図る。

(2) 県内石油受入配分基地の機能強化

- ・油送船の大型化に対応した港湾施設の整備を図る。

II. 加賀島^{かがしま}地区の土地利用計画の見直し

- ・リサイクル関連等新規産業用地と市民が憩える親水空間を創出するための緑地を確保する。

III. 災害時の緊急物資輸送対応と空間確保

- ・地域住民の安全確保や産業活動の維持のため耐震強化岸壁を位置付け、熊本県南部地域の緊急物資輸送基地として機能を確保する。

港湾管理者連絡先: 熊本県土木部港湾課

やました かめざき
山下、亀崎(Tel 096-333-2516 Fax 096-387-2461)

2. 八代港の位置



八代港位置図



八代港全景

3. 計画の概要

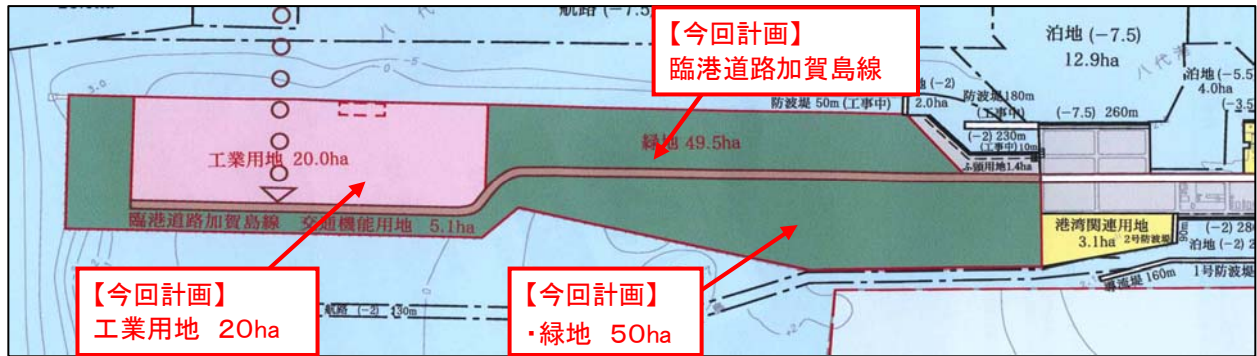
【I. 既存施設の有効活用による物流機能の強化】

現在、八代港の公共岸壁の最大水深は-12mであるが、穀物・石炭・チップ貨物船の大型化により、満載喫水で入港できない船舶が増加しているため、既存の外港地区-12m岸壁を-14mに増深。また、大島地区の石油受入配分基地において、船舶の大型化による輸送の効率化に対応するため、-5.0mから-6.5mに増深し、物流機能の強化を図る。



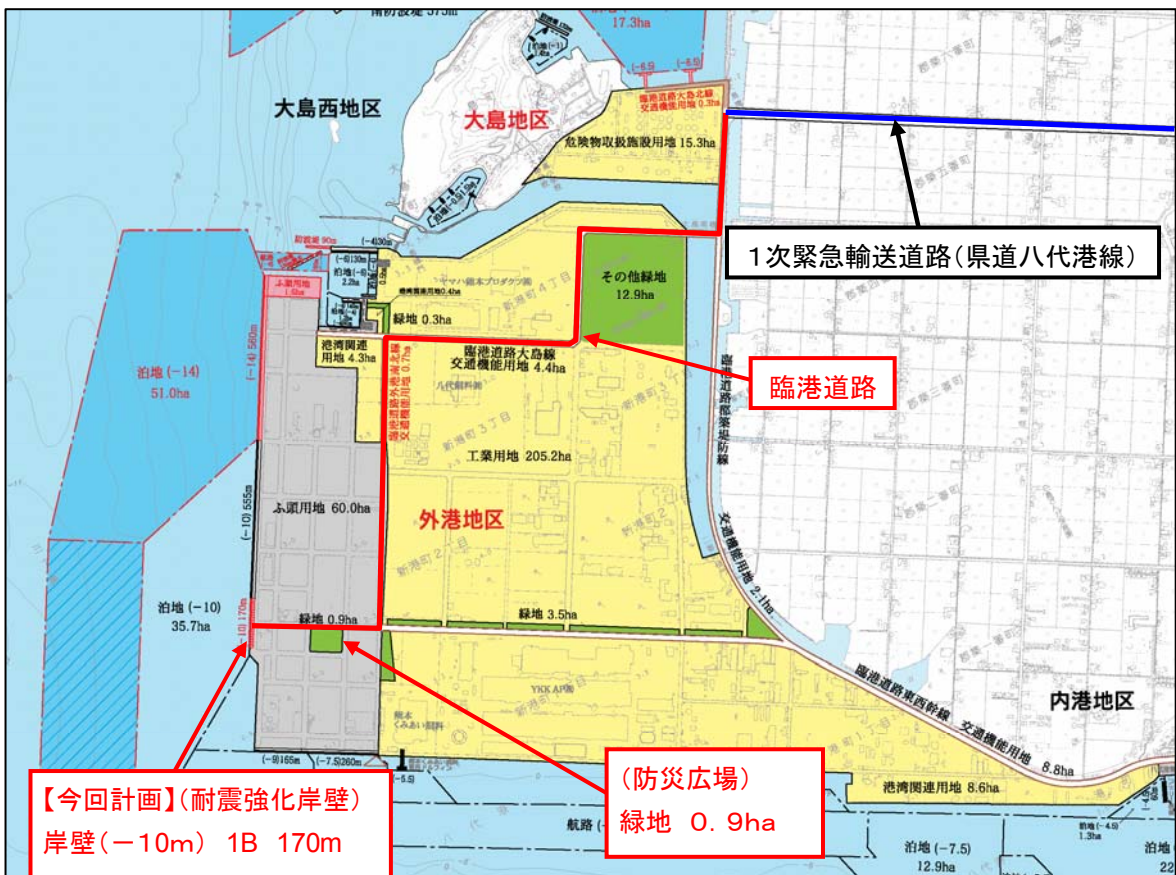
【Ⅱ. 加賀島地区の土地利用計画の見直し】

八代港ではリサイクル関連産業の活動が活発化してきており、加賀島地区にリサイクル関連産業等新規産業用地を確保するために工業用地を計画する。また、八代市民や来訪者が憩い、楽しめるレクリエーション空間の要請に対応した緑地を計画する。



【Ⅲ. 災害時の緊急物資輸送対応と空間確保】

熊本県南の中心に位置する八代地域の防災機能強化のため、八代港に耐震強化岸壁を新たに位置付け、背後の緑地を防災緑地として活用し、緊急物資輸送の拠点として機能を確保する。



4. 八代港港湾計画図

